

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23039

建築物名称	アールブラン武蔵新城レジデンス
建築主	株式会社モリモト 代表取締役社長 森本 浩義
建築物の所在地	川崎市中原区上小田中一丁目271番3、272番1、272番2
設計者氏名、建築士事務所名	岡本 俊輔 株式会社日本エーコン 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	6,688.34㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和8年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

評価結果

1-1 建物概要

建物名称	アールプラン武蔵新城レジデンス
建設地	神奈川県川崎市中原区上小田中一丁目271番3、272番1、272番2
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域
地域区分	6地域
建物用途	集合住宅
竣工年	2026年1月 予定
敷地面積	2,635 m ²
建築面積	1,809 m ²
延床面積	6,688 m ²

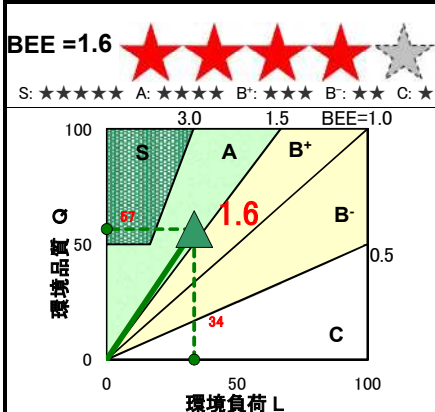
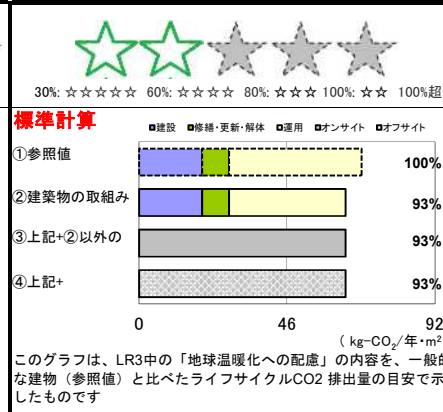
階数	地上5F
構造	RC造
平均居住人員	298 人
年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2022年12月15日
作成者	株式会社 日本エーコン一級建築士事務所 岡本俊輔
確認日	2022年12月15日
確認者	株式会社 日本エーコン一級建築士事務所 岡本俊輔

1-2 外観

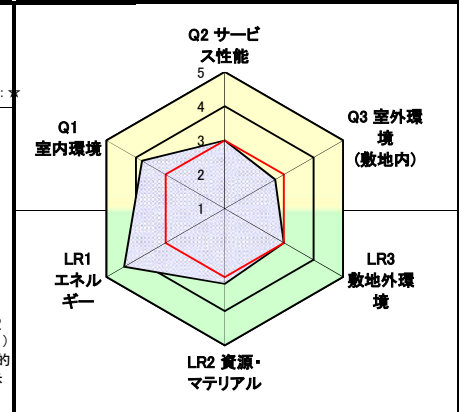
23039

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

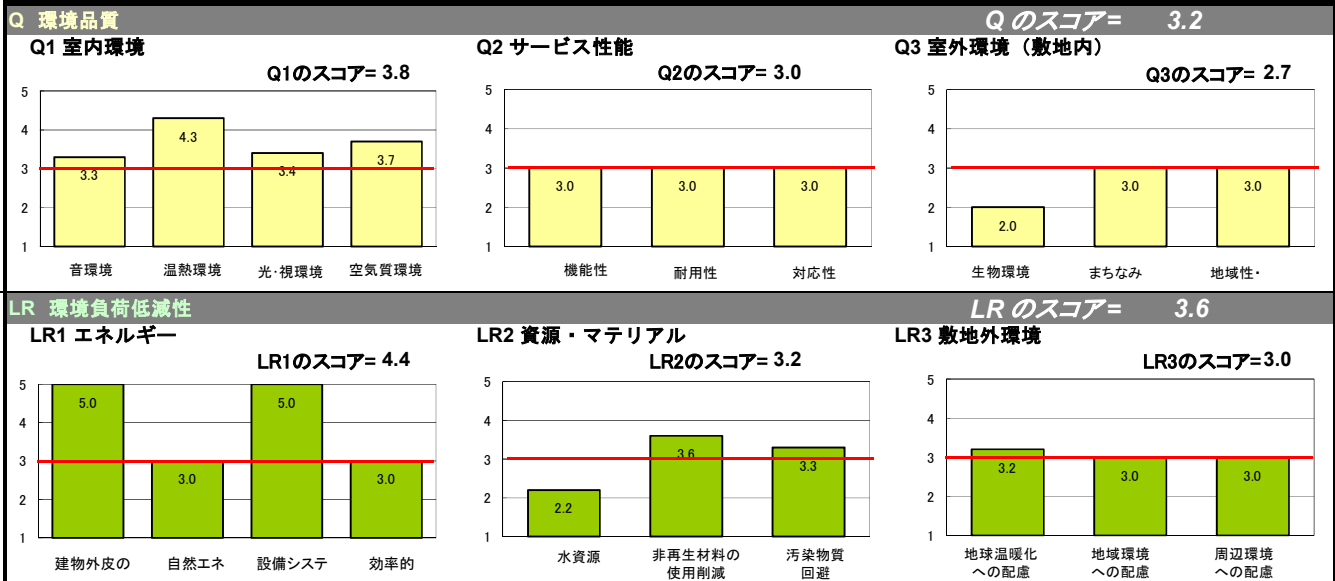
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針を基に植栽計画を行う まちなみ風景に調和、植栽により良好な景観を形成 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積20%以上30%未満	2.3/4.3	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	風環境の把握、地表面対策率:30%以上45%未満	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.5
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	断熱性能等級4を超える断熱材性能 カーテン+庇(バルコニー)にて昼光制御	5.7/6.4	4.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針を基に植栽計画を行う、外来種および自生種に配慮 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積20%以上30%未満	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱性能等級4を超える断熱材性能 BEI=0.85	4.4/5.0	4.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	LGS工法をほぼ全面的に採用 ODP=0の冷媒を使用	3.0/4.7	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	風環境の把握、地表面対策率:30%以上45%未満	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.3
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	主要内装仕上げ材の更新間隔は16年以上～25年未満	0.3/0.5	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	LGS工法をほぼ全面的に採用	2.6/4.0	3.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な量の自転車置き場および駐車スペースを確保	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針を基に植栽計画を行う、外来種および自生種に配慮 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積20%以上30%未満	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱性能等級4を超える断熱性能 BEI=0.85	4.4/5.0	4.4
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	風環境の把握、地表面対策率:30%以上45%未満	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	断熱性能等級4を超える断熱性能 BEI=0.85	4.4/5.0	4.4

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境							0.40		-	3.8
1 音環境						4.0	0.15	3.2	1.00	3.3
1.1 室内騒音レベル					—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音					開口部遮音性能:T-2以上	5.0	1.00	5.0	0.30	
1 2 開口部遮音性能					—	-	-	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					—	-	-	2.0	0.20	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	-	-	-	-	
1.3 吸音					—	-	-	-	-	
2 温熱環境						2.2	0.35	5.0	1.00	4.3
2.1 室温制御					—	2.2	0.50	5.0	1.00	
1 室温					日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」 における等級4を超える	3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		W			—	1.0	0.38	5.0	1.00	
3 ゾーン別制御性					—	-	-	-	-	
2.2 湿度制御					—	1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式					—	3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.7	0.25	3.7	1.00	3.4
3.1 昼光利用					昼光率2.5%≤[昼光率](共)、昼光率2.0%≤ [昼光率](住)	4.2	0.30	3.4	0.50	
1 昼光率					—	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口					—	-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		W			—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					カーテン、庇の2種で昼光制御(住)	1.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		W			—	1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度					—	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					—	3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						4.0	0.25	3.6	1.00	3.7
4.1 発生源対策					F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					—	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気					シックハウス対応の換気量の1.4倍以上(共)	4.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量					—	5.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					—	-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					—	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					—	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	-	-	-	-	
2 喫煙の制御					—	-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.0
1 機能性						2.4	0.40	3.2	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性					GMbitクラスのブロードバンドが利用可能な環 境が整備されている	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応					—	-	-	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画					—	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					—	1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観					—	-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					—	-	-	-	-	
3 内装計画					—	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理					—	3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					—	3.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R		—	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔			R		内装仕上材の更新必要間隔は16年以上～ 25年未満	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		給水(PEP)、排水・雑排水(VP)	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					—	3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性									3.0	0.30	3.1	1.00	3.0	
	3.1 空間のゆとり									-	-	3.2	0.50		
	1 階高のゆとり								階高2.9m以上3.0未満	-	-	4.0	0.60		
	2 空間の形状・自由さ								-	1.0	-	2.0	0.40		
	3.2 荷重のゆとり								-	-	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性									3.0	1.00	-	-		
	1 空調配管の更新性								-	3.0	0.20	-	-		
	2 給排水管の更新性								-	3.0	0.20	-	-		
	3 電気配線の更新性								-	3.0	0.10	-	-		
	4 通信配線の更新性								-	3.0	0.10	-	-		
5 設備機器の更新性								-	3.0	0.20	-	-			
6 バックアップスペースの確保								-	3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)										-	0.30	-	-	2.7	
1	生物環境の保全と創出				G	W			H	外構緑化指数は川崎市の緑化指数の基準に適合、外来種及び自生種の保全に配慮	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮				G					周辺のまちなみ・風景に配慮、植栽により良好な景観を形成	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮										3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上									専用庭設置による中間領域の形成、見通しの良いフェンスの設置による防犯性への考慮	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W			H	Ⅲ 1)緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積20%以上30%未満	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性											-	-	-	3.6	
LR1 エネルギー										-	0.40	-	-	4.4	
1	建物外皮の熱負荷抑制					W			H	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用					W			H	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化					W			H	BEI=0.85	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用										3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価										-	-	-	-	
	4.1 モニタリング					W			H	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制					W			H	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価										3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング					W			H	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制					W			H	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル										-	0.30	-	-	3.2	
1	水資源保護					W	R				2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水									-	1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用									-	3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無									-	3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無									-	3.0	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減										3.6	0.60	-	-	3.6
	2.1 材料使用量の削減					W	R			-	2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用					W	R			-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W	R			-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W	R			断熱材(躯体)、タイル(外構)、ビニル床シート(外廊下)	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材					W	R			-	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					W	R			LGS工法の採用	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避										3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用									壁紙用接着剤、タイル目地用シーリング	4.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避									-	3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤					W				-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)					W				-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒					W				-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境										-	0.30	-	-	3.0	
1	地球温暖化への配慮					W				ライフサイクルCO2を参照値より抑制	3.2	0.33	-	-	3.2
2	地域環境への配慮										3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止									-	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W			H	地域気象観測データを把握、隣棟間隔指標Rw ≥ 0.5以上、地表面対策率30%以上45%未満	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制										3.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減						R			-	3.0	0.25	-	-	
	2 污水处理負荷抑制						R			-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制						R			-	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制						R			-	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮										3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止									-	3.0	0.40	-	-	
	1 騒音									-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動									-	-	-	-	-	
	3 悪臭									-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制									-	3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制									-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制									-	1.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制									-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制									-	3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策									-	3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		-	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	-	-	2.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	2.0		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0		1.0	-	-	3.0	2.0	-	-	2.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -	外壁 -	床 -
U値(W/m2K) 窓システム -	屋根 -	
住戸部分システムU値 -	外皮UA値 -	ηAC - ηAH -
昼光率 0.0%		
自然換気有効開口比 0.0%		

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0㎡ / 人 病床 .0㎡ / 床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡	
コンセント容量 0.0 VA/㎡	
天井高 2.45 m	
リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%	
想定耐用年数 0 年	
想定必要間隔 15 年	
想定必要間隔 20 年	
想定必要間隔 0 年	
階高 2.91 m	
壁長さ比率 0.0%	
床荷重 - N/m2	

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数 160% 建物緑化指数 0%	
空地率 31% 水平投影面積率 7% 地表面对策面積率 25% 舗装面積率 0%	

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m - 日射等性能等級 等級4を超える 相当	
自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0%
	通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%
BPI/BPI _m 非住宅 - 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW	

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率 0.0%	
特定調達品目断熱材、タイノエコマーク商品 ビニル床シート 自治体指定の特定品目等 -	
使用比率 0.0%	
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)	
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)	
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)	

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 160%棟間隔指標Rw 0.58	
地表面对策面積率 35.1% 屋根面对策面積率 #DIV/0! 外壁面对策面積率 #DIV/0!	
見付面積Sb 1,313㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 95.93 m 基準高さHb 8.54 m	
緑地 392㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡	

23039

アールブラン武蔵新城レジデンス

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に
基づいています。